御陵の風

令和元年７月発行　学校便り

剛敬勤
健愛勉

文責：校長　藤井浩彦

◆頑張ることは素晴らしい！一生懸命はかっこいい！

右の写真を見て、どんなことを感じられますか？これは、ソフトボール部の試合が始まるときに選手が集まって声を掛け合っているところです。素敵な表情をしているのが伝わってきます。この写真を見るだけで「よし、やるぞ！」「絶対に勝とうね！」などの思いを感じることができます。ここまでくる間にいろいろな苦しみや喜び、たくさんの努力があったのだろうと思います。こうやってチームが一丸となり、目標に向かって頑張っているときの姿って本当に素敵だと心から思います。チームとしてだけでなく、一人一人にもそれぞれのドラマがあり、様々な葛藤の中でここまで続けてきたのだと思うとそれだけで、胸に迫るものがあります。大会・コンクールがこれからの生徒、残念ながら引退となった生徒、上の大会に進む生徒･･･など様々ですが、ここまで精一杯に頑張ってきたことは何物にも代えがたい財産だと思います。これまでの頑張りを自信に変え、また次の目標に向かってそれぞれに努力を続けてほしいと願っています。

これまでたくさんのご協力とご支援をいただきました保護者の皆様に心から感謝いたします。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

今後の行事予定

月	日	曜	行　事	月	日	曜	行　事
7	9	火	１年生交通安全教室	9	9	月	代議員認証式
	11	木	学校保健委員会		12	木	選手激励会
	12	金	地域集会		14	土	GORYOマルシェ
	19	金	１学期終業式		18	水	２年生修学旅行[～20日]
	22	月	吹奏楽コンクール		20	金	３年生中間考査
8	28	水	登校日		21	土	筑紫区駅伝大会
	29	木	登校日		25	水	おはよう運動[～27日]
	30	金	登校日・夏課題テスト		27	金	中間考査[1･2年生]
9	2	月	２学期始業式		28	土	筑紫区新人大会
	3	火	ＰＴＡ委員総会		29	日	筑紫区新人大会

『形直影端』

学校の詩 ④

御陵中学校が大切にしているものの中に「立ち止まって挨拶」があります。

もともと、野球部の生徒から浸透していったと聞いています。ですから、今でも特に野球部の子ども達は、先輩からしっかりと受け継ぎ、きちんとした「立ち止まって挨拶」ができています。された方は、とてもうれしい気持ちになると同時にこちらまで背筋が伸びて「きちんとしなければ･･･」とも思います。本当に素晴らしいことです。

社会人の挨拶のマナーについて調べていくと、「立ち止まって挨拶」は「挨拶の基本」だと至る所に書かれています。もちろん、「立ち止まって」だけでなく、表情、声、目線、自分から積極的に･･･など、他にも大切なことが書かれています。

日本人の挨拶（お辞儀）が世界のサッカー界でも有名になりました。みなさんよくご存じの長友佑都選手（トルコ、ガルタサライSK所属）がインテル所属時代、ゴールを決めたときに行った「お辞儀パフォーマンス」です。これは、「感謝の気持ちを伝えるために、お辞儀をする」という日本の文化をパフォーマンスにしています、その姿は、イタリアのメディアにも取り上げられ、チームメイトや観客までもがお辞儀をするようになりました。

御陵中の子ども達が日々当たり前のように行っている「立ち止まって挨拶」は、とても価値のあることだと次の文章からもわかります。本校の先生がいろいろと調べ作成し、１階の廊下に掲示されているものです。

> 「立ち止まって挨拶」は、大きな成長の鍵です！
>
> 「立ち止まって挨拶」は、初めは単なる「形」にすぎません。しかし、挨拶する相手にいち早く気づき（アンテナ）、そちらへ向けて足を止め（自分は後回し）、自ら声を出して（積極的）、頭を下げる（感謝）ことで、周りに気を配る力、様々なことに感謝する気持ち、自分から始める積極性が育っていきます。
>
> 自然にできるようになると「立ち止まって挨拶」は「誠実」でなければできないことに気づきます。わがままな人は「立ち止まって挨拶」ができません。他者を受け入れ大切にしようという素直さが、実は自分を育ててくれるのです。
>
> 哲学者の内田樹氏が「学力」のことを「学ぶ（ことができる）力」だと言い、「学ぶ力」とは、「私は学びたいのです。先生、どうか教えてください」という言葉に集約されると言っています。「自己の無知への自覚（積極性）」「師を求め続ける意欲（アンテナ）」「師を教える気にさせる素直さ（自分は後回し）」が「学ぶ力」には必要であり、「立ち止まって挨拶」は「学ぶ力」を育ててくれるのです。

私が特に「目から鱗」だったことは、「立ち止まって挨拶は誠実（真心をもって人や物に接すること）でなければできません」という部分でした。なるほど、やはり「心」の部分が大きいということが改めてわかりました。「立ち止まって挨拶」が自然とできるようになるには、「相手意識」や「感謝の気持ち」が育っていっているかということになります。もちろん、最初は形からであっても、それを続けていくことでしっかりと心は育っていくのだと思います。

さて、今回のタイトル「形直影端」です。何と読むかと言うと・・・

「かたちなおければ、かげただし」と読みます。禅語（禅宗独特の言葉、「一期一会」などもそれにあたる）の一つだそうです。意味は、「姿勢が正しく美しければ、その影も自然と端正（正しくきちんとしている）になる」、要するに、「姿勢や立ち振る舞いが整うと、気持ちも自然と整う」ということです。

これは、御陵中が大切にしている「立ち止まって挨拶」にも通じるところです。まずは、形からでもきちんとしていくことは、心を育てていくことにつながっているということです。

もっと言えば、私たち大人もその立ち振る舞い、姿に魅力があれば人は必ずついてくるということでもあると思います。ですから、御陵中の「立ち止まって挨拶」は、相手を気持ちよくさせる挨拶であると同時に、自分自身を成長させ磨いていく大切なものであると言えます。ある資料には、「挨拶は自分の未来のためにするのである」と書かれたものもありました。挨拶をきちんとできる人こそ、仕事がきちんとでき、人から信頼され、明るい未来を築いていくことができると。

「形直影端」、しっかりと心に留めたい言葉です・・・

（校長：藤井浩彦）